

市長スピーチ

(2023年10月13日(金) N R (米海軍原子力推進機関部) 本部にて)

はじめに、N R (米海軍原子力推進機関部) の創立 75 周年を、心よりお祝い申し上げます。

長きにわたり、N R を支え、発展させてこられた先人の方々、そして、ここにお集まりの皆さまの、絶え間ないご努力に、心より敬意を表します。この記念すべき節目の年に、N R の本部において、こうして皆さまと、直接お会いすることができ、大変嬉しく思っています。

今回再び訪問することができ、そして今、こうして、私がこの場で話をさせていただいているということは、これまで海を越えて、良好なパートナーシップが継続し、更に今まで以上に、強固なものに変化したことの証であると、確信をしています。

現在、横須賀は世界で唯一、米国以外で、原子力空母が、前方展開されている街です。私は横須賀の首長として、国防の一翼を担っているというプライドを常に持ちながら、横須賀の更なる発展を目指し、真っすぐに歩みを続けています。お互いの信頼づくりには、地域の安全・安心が確保され、お互いが、心より分かり合える環境が整っていることが必要ですが、安全・安心を維持し続けることは、並大抵のことではありません。空母が半世紀にわたり、安全で安定的に運用できるのも、ここにお集まりの皆さま方の、卓越した技術力、己の仕事に対する誇り、そして、日々の地道な努力が結集した成果であると、私は思っています。

私は、横須賀にいる米軍人も市民であると、常々公言しています。
また、横須賀に来られた皆さんには、横須賀を「第2のふるさと」として愛して欲しいと、心より願っています。

来年には、原子力空母ジョージ・ワシントンが、横須賀に再び配備されるとお伺いしています。国際社会のパワーバランスが大きく変化する、現在の世界の厳しい安全保障環境を鑑みれば、米海軍基地、そして原子力空母が、横須賀市民の理解を得ながら、安全にそして安定的に運用されることは、極めて重要です。米国の厳しい基準による運用が厳格になされ、その安全性について、引き続き万全の対策がなされることを希望します。

そして、ここにお集まりの、空母の安全を担う皆さまの日々の努力は、日本、そして世界の自由と平和にとって、大きな力となります。

私も横須賀の首長として、米海軍とのパートナーシップの更なる強化に向け、誠心誠意、責務を全うする所存です。未来に向けて、我々の友好の絆を、さらに深めて参りましょう。

最後になりますが、NRの更なる発展と繁栄を、心より祈念しております。ありがとうございました。

米国国防総省への訪問（2023年10月12日）



向かって左が、エリック・レーブン米国海軍省海軍次官

右が、リサ・フランケッティ米海軍作戦副部長

米海軍原子力推進機関部(NR)でのスピーチ(2023年10月13日)



ジェームズ・F・コールドウェル米海軍原子力推進機関部長と